

## 潮流

今年の夏は  
とても暑い夏  
でした。体温  
よりも高い気  
温もしばしば  
経験しました  
が、それ以上  
に胸を熱くさ  
せてくれる経  
験もいくつか  
しました。

まずは、熊  
本で開催された第17回日本外来小  
児科学会の「髄膜炎から子どもた  
ちを守るワクチンワークショップ」  
で、「細菌性髄膜炎から子ど  
もたちを守る会」の代表の方の体  
験を聞きました。実体験に基づく  
話にはインパクトがあり、胸を熱  
くさせられました。医療が進歩し  
た日本でも年間約千人の子どもた  
ちが細菌性髄膜炎に感染し、5%  
の方が亡くなり、四人に一人が後  
遺症に苦しんでいます。日本で発  
症する細菌性髄膜炎の約60%はヒ  
ブ(Hib)インフルエンザ菌b  
型)、約30%は肺炎球菌によるも  
ので、迅速で適切な治療がなされ  
ても、細菌性髄膜炎を起こした新  
生児の約30%は死亡し、10-20%  
に後遺症が残ります。

これを予防するために、世界百  
カ国以上でヒブ・ワクチンが導入  
され、WHO(世界保健機関)の  
推奨により九十四カ国で定期接種  
になっています。米国では一九八  
七年にワクチンが認可されて以来  
ヒブ感染症の罹患(りかん)率は  
百分の一に減少し、九〇年には定  
期接種となりました。英国でも九  
八年には五歳未満人口の十万人あ  
たり〇・六人にまで減少していま  
す。日本では今年一月によろやく  
承認されましたが、まだ定期接  
種にはなっていません。

また、日本では肺炎球菌23価多  
糖体ワクチンが、心・肺系慢性疾  
患患者などのハイリスクの成人を  
対象に接種されています。米国で  
は乳幼児の肺炎球菌感染症を予防  
するため、肺炎球菌7価ワクチン  
が開発され、二〇〇〇年から乳幼  
児と児童に定期接種となり、世界  
六十六カ国で承認されています  
が、日本ではまだ治験中です。予  
防接種(ワクチン)で防ぐことが  
できる病気(VPD)として、W  
HOが推奨しているように、ヒブ・  
ワクチンが定期接種化され、世界

## 暑い・熱い夏

## 松田 隆

## NPO法人未来副理事長、鳥取県中部医師会副会長

の多くの国から消えた病気で日本  
の子どもたちが苦しむことのない  
ようになってほしいものです。  
次いで、三十八歳で亡くなった  
世界的プロウィンダサーファー飯  
島夏樹さんの映画『Life 天  
国で君に逢えたら』を見て、また  
胸が熱くなりました。これは飯島  
さんの小説『天国で君に逢えたら』  
の映画化で、肝細胞癌(がん)で  
余命宣告を受け、うつ病やパニック  
障害を克服し、「自分が生かさ  
れている」ということを体感し、  
病床で始めた執筆活動に生きがい  
を見だし、最期の時まで自らの  
思いを書き続け、「希望がなけれ  
ば、人は生きてゆけない」と愛と  
優しさ、勇気を与えてくれました。  
そして、私の頭の中では、「むむの  
木のこともたちとまり子美術展」  
の宮城まり子さんの「やさしくね  
やさしくね やさしいことはつ  
よいのよ」というメッセージと飯  
島さんのメッセージがダブってい  
ました。

2011.9.7



最後に、黒絵桜麻(くろえおま  
ま)さんの「こころの和紙えほん  
展」で三十一冊の新しい感覚の絵  
本に出会いました。和紙という柔  
らかい素材の中にも桜麻さんの力  
強いメッセージが伝わってきま  
す。「あかちゃんへ」というほ  
んの最後に「新しい未来をつれ  
てきた まあるい生命(いのち)」

おめでどう おめでどう」と描か  
れています。今年の暑い夏に感動  
した熱い思いのなかで、未来ある  
いのちにおめでどうというって、み  
んなが幸せに過ごせる日本であり  
たいと願い、まずは身の回りの自  
分にできることをしていきたいと  
思います。二十二日午前九時半か  
ら湯梨浜町中央公民館で開催され  
る「鳥取発 心のふれあいプロジ  
ェクト全国集会」で、この暑い・  
熱い夏の思いを共感してみませ  
んか? 問い合わせは電話0858  
(22)9791、NPO法人未  
来事務局(心のふれあいプロジ  
ェクト)へ。